2　本校授業改善を俯瞰して

本校は、「教科を越えて活用できるツール」であるという共通の長所を持つＩＤとＩＣＥモデルを両輪として授業改善を進めてきました。

学校全体で授業改善を進めていくことについて「ＩＤとＩＣＥモデルを活用し教師のメタ認知力の向上を支援することは、授業改善を促進する」との仮説のもと、以下６つのアプローチによって授業改善を進めています。

①「授業改善のための工夫の見せどころシート（以下、「見せどころシート」）」を作成する

このシート自体がＩＤの枠組みで作られており、そこにＩＣＥモデルの視点を組み入れた形にしています。このシートを作成するという応用問題に挑戦することで、取り組む過程で理解を深めていくことを主眼としています。

②教科会で「見せどころシート」を検討する

同教科の同僚によるインスピレーションの獲得を目指します。年度当初の職員会議で作成の提案をお知らせし、例年１０月末の学校オープンデーの日の授業について書く（当日提示する）ことを目指して取り組んでいます。この段階を経て、作成した職員作成例を「見せどころ設計マニュアル」（本冊子）にすべて掲載し、職員で共有しています。令和３年度からはgoogleドキュメントを活用し、共有ドライブに保存することにしています。

③同校の他教科の教師と「見せどころシート」を検討する

教科を越えた教師によるインスピレーションの獲得を目指します。校務分掌内で交流したりします。また、見せどころシートなどの疑問について会話できる場「ＩＤカフェ」を設定し、気軽に質問ができるようにしています。

④他校の教師と「見せどころシート」を検討する

学校外の教師の視点によるインスピレーションの獲得を目指します。昨年度は「主体的な学びフォーラム」として実施し、県内他校にも呼びかけ参加者がありました。また、主体的な学び研究会の先生方にも御参加いただき大変充実した会になりました。

この記事は、
ベネッセ教育総合研究所ＨＰ内：マナブコラム【授業づくり】熊本県立第二高等学校の「二高ＩＣＥモデル」から生徒の主体的な学びを促す指導を考えるとして掲載されています。

⑤「ＩＤの前提（高校版）」に取組む

ＩＤの代表的ツールに定期的に解答することにより、理解の再構築を促すことを目指しています。「ＩＤの前提（高校版）」は、「ＩＤの前提（病院版）」を基に高等学校での活用のために作成したものです。時間モデル・経験学習・９教授事象など、ＩＤを代表する１５項目の記述で、それに対する自分の考えを「賛成・保留・反対」のどれかで意思表示するものです。アンケートツールでの投稿形式とし、変化の様子を追っています。職員向けで作成したホームページ「第二高校職員研修サイト」では、結果をスライド形式で共有することを通し、理解を深めることにつなげる工夫を始めています。

今年度の「主体的な学びフォーラム」午前の部を通して、これまでの教師が使う「ＩＤの前提（高校版）」を基にして、生徒たちが使う【「学び方を学ぶ」ための前提となる考え方】を作成し、生徒が使ってみる機会を設定しました。これは、令和３年度から「二高キャリアパスポート」の１つの柱として実施していく予定です。

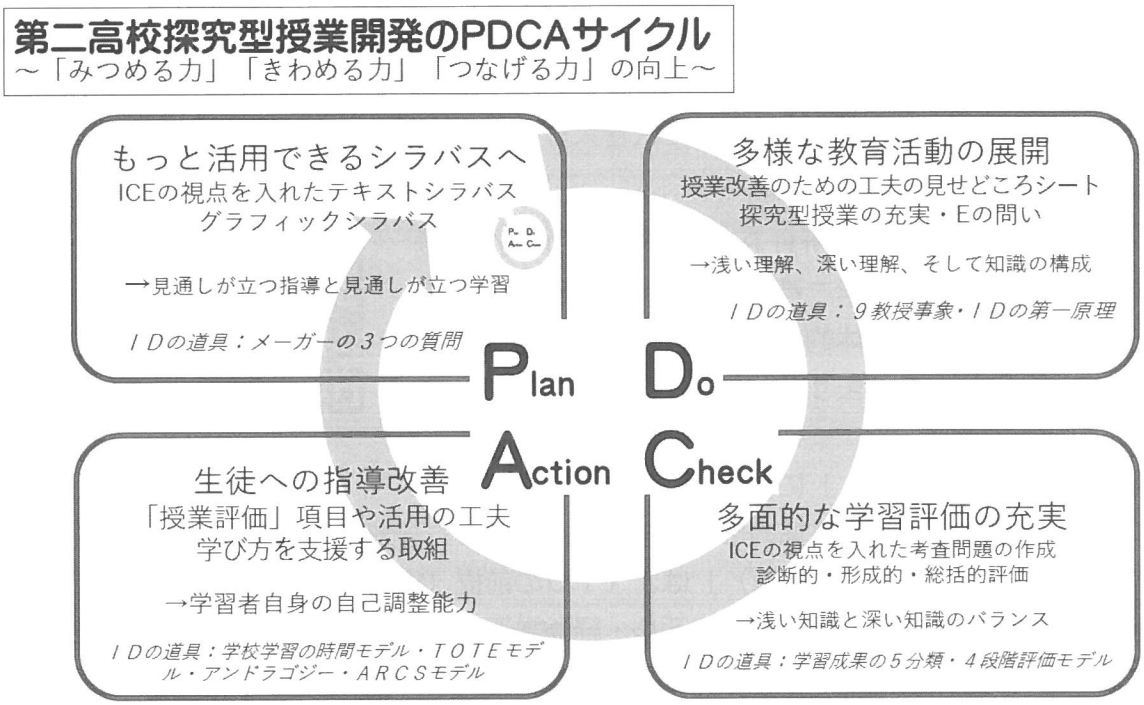
⑥生徒の変容の様子を知る

（１）「学び方を学ぶ」ＩＤの本を活用し、生徒の感想（各自の振り返りをシェアするお便り）を教師が共有することによって生徒の変容を認知することを目指します。この取組の初回での生徒感想に「何も考えない学び方はやめたい」と印象的な記述があり、その後お便りのタイトルとなりました。今年度も取組を継続しています。

（２）生徒が主体となってグループワークを進めることで、生徒が主体的な学びを得られることを教師が認知することを目指します。

（３）ＩＤとＩＣＥの視点で作成した「生徒主体の授業デザインになっているかを問う授業振り返り」(授業評価の第二高校改訂版)を分析し、授業改善の視点を得ることを目指します。この取組も、令和３年度から「二高キャリアパスポート」の２つ目の柱として実施していきます。

⑦業績評価に取り入れる

本校の業績評価には、具体的目標に必ずＩＣＥモデルおよびＩＤの視点を入れることになっています。これにより、全職員がＩＣＥモデル・ＩＤの理解を深めることを目指すことができる、全校的な取組となっています。

他にも多々ある取組の全体像を図式化したものが下記です。